

「明日の山口大学ビジョン 2030」

自己点検評価書

令和7年11月

1. 背景および目的

本学では、〈知の創造としなやかな人材の育成により地域に・世界に貢献する山口大学〉を目指し、2030年を、そしてさらにその先を見据えて令和5年1月に「明日の山口大学ビジョン2030（以下「ビジョン」という。）」を策定した。また、ビジョンの実現のため、各主要施策に3年ごと（2024（令和6）年、2027（令和9）年、2030（令和12）年）に本学の目指す姿・ありたい姿を示した「明日の山口大学ビジョン2030」マイルストーンを令和5年12月に公表した。ビジョンの自己点検・評価は、3年ごと（2025（令和7）年度、2028（令和10）年度、2031（令和13）年度）に実施することとしており、進捗及び達成状況を確認することで、ビジョンの達成に向けて今後の方針等を検討する機会とする。加えて、ステークホルダーに対し、評価結果を積極的に公表することで、本学の諸活動への理解・支持を獲得することを目指す。

2. 実施方法

ビジョンを構成する5つの領域（「教育」、「研究」、「地域」、「ダイバーシティ」、及び「経営」）の区分により、各領域を担当する責任者である副学長の下、領域別に自己点検・評価を実施し、その結果（自己点検・評価結果（案））を副学長（大学評価担当）へ報告した。副学長（大学評価担当）は内容を確認した後、学長に報告を行い、学長は、自己点検・評価結果（案）を基に、自己点検・評価を実施し、その結果を取りまとめ、本書（自己点検評価書）を作成した。

3. 自己点検・評価結果

（1）総括

教育領域では、地域・国際協働を強化し、STEAMやDXに対応した分野横断的なカリキュラムを導入している。山口県内3大学連携のSPARC教育プログラムにより「文系DX人材」育成を開始し、令和7年度に「ひと・まち未来共創学環」を設置した。国際社会で活躍する人材の育成を目的として、海外大学との共創教育プログラムを実施し、国際的視野を持つ人材を育成している。また、教学IR（Institutional Research）体制を確立し、客観的なデータに基づいた教育の質の「見える化」と教育改革を推進している。

研究領域では、「細胞デザイン医科学研究所」等、4拠点をトップダウン型産学公連携研究拠点に認定し、オープンイノベーションを加速した。同研究所は、人と動物の医療を革新する「医・獣トランスレーショナル研究」を推進する国際研究開発拠点をめざす。また、大学の「総合知」を結集した「山口大学グリーン社会推進研究会」を強化し、脱炭素と地域イノベーションへ貢献している。加えて、「研究機器インストラクター制度」により、研究活動の活性化と学生の専門性獲得を両立している。

地域領域では、地域未来創生センターへの相談事例が増加し、地域のシンクタンク機能強化の基盤を固めている。県内企業や卒業生等の情報を一括管理するステークホルダー管理システムを構築し、共同研究等企業等との連携に活用している。また、山口市・宇部市との地域連携プラットフォームで地域課題の解決に向けた継続的な協議を実施している。さらに、大学リーグやまぐちと連携し、地域ニーズに合った人材育成（SPARC教育プログラム）を開始した。

ダイバーシティ領域では、女性・若手・外国人研究者を積極的に登用し、女性教員比率増加率で全国総合国立大学中3位を達成した。また、SOGIガイドラインの見直し等、多様な個性・価値観の尊重を推進した。ナイロビ大学との国際交流協定を締結し、アフリカを含む各国からの留学生受入を拡充するとともに、学生団体の活動参画等により、学生とともにキャンパスづくりを進めることで、ダイバーシティキャンパスの実現を目指している。

経営領域では、学長によるガバナンスをガバナンスコードに沿って強化し、その公開等により透明性を確保している。また、情報基盤センターのICT基盤センターへの改編、Google Workspaceの導入等、業務効率化、DXの推進を実行している。併せて、データ連携に必要な諸規則を整備した。加えて、「ひと・まち未来共創学環」の設置等、地域ニーズに合わせた組織改革を実施した。さらに、魅力ある職場環境の構築に向けて、ワークライフバランスを重視し、半日単位のテレワーク勤務制度拡充や連続休暇取得促進等、働きやすい職場環境の実現に取り組んでいる。

(2) 領域別自己点検・評価結果

ビジョンを構成する5つの領域（「教育」、「研究」、「地域」、「ダイバーシティ」、及び「経営」）ごとに、自己点検・評価結果を示した。ビジョンの実現に向けた取組状況等を記載した総括を掲載するとともに、ビジョンを実現するための「重点戦略」単位で実施状況を以下の5段階で評価し、その結果を掲載した。

重点戦略の実施状況（5段階評価）

- 5：当初の想定以上に実施した
- 4：十分に実施した
- 3：実施した
- 2：十分には実施していない
- 1：全く実施していない

①教育ビジョン

既存の学問領域の上に立ちつつ、既成概念に捉われない発想、多様な価値観と深い洞察力を持って、地域社会や国際社会の困難な課題に果敢にチャレンジし、近未来の社会をしなやかに切り拓き、Society5.0の実現に貢献する人間性豊かな人材を育てます。

(i) 総括

教育ビジョンに係る5つの重点戦略の主要施策について、それぞれのマイルストーンの実現に向けて取り組み、その結果、大学間の枠を超えた地域連携・国際協働を強化し、STEAMやDXといった近未来のニーズをも踏まえた分野横断的なカリキュラムを導入している。また、教学IR（Institutional Research）体制を確立し、入学から卒業「後」まで一貫してデータを活用することで、教育の質を「見える化」し、客観的な根拠に基づいたデータ駆動型の教育改革及び入試制度の改善を実現している。大学院教育については、学部教育におけるSTEAM教育の取組みを拡大し、「横断的共育科目群」を導入した。分野の垣根を超えた多様な知識を修得することによって、多角的な視点から社会の諸課題を解決できる力を身につけることが可能となった。学生支援体制については、カウンセラーによる丁寧で専門的な支援の強化に加え、学生自治会との連携を通して、学生の主体的な成長を促している。さらに、「キャリアセンター」の開設により、学部生から大学院生まで一貫したキャリア形成の支援を実現している。これらの取組により、Society5.0の実現に貢献する人間性豊かな人材の育成を進めている。

(ii) 重点戦略の実施状況（5段階評価）

内容	評価
地域社会や国際社会で活躍する人材の育成	4
時代の変化に対応した教育環境の整備	3
創造的な人材を育成する大学院教育	3
多様な価値観や経験、能力を持つ優秀な学生の受け入れ	3
学生支援体制の充実	3

②研究ビジョン

様々な社会ニーズの変化にしなやかに対応し、イノベーションをもたらす知を創出し続けます。そのために、総合大学の強みを活かして学際的な知を集め、産学公の連携により、地域活性化に繋がる産業拠点の形成に寄与できる地域イノベーション・エコシステムの構築を図るとともに、世界をリードする研究領域を創造します。

(i) 総括

令和6年度末までに、「予防医学推進コホート研究センター」「地域レジリエンス研究センター」「細胞デザイン医科学研究所」「One Welfare 国際研究センター」をトップダウン型産学公連携研究拠点に認定し、地域課題解決型のオープンイノベーションを着実に加速させている。時間学研究所の拡充、「細胞デザイン医科学研究所」の設立、また、先進的な医用AI技術の開発や個人情報保護に配慮した「院内完結型自然言語処理システム」の構築により、世界をリードする研究領域を創造している。研究推進体の成果発信の支援を強化するとともに、認定から3年が経過した研究推進体の成果報告会を実施し、研究進捗の可視化とフィードバック体制を確立して、学際的基礎研究を推進している。共用機器の利用実績や論文発表、外部資金獲得状況といった成果を把握するシステムを開発し、研究資源の効率的な活用と研究成果の最大化に貢献している。「グリーン社会推進研究会」の活動を強化し、令和6年度末には276名に達しており、地域課題解決とグリーン社会の実現に向けた具体的な足掛かりを創出している。これらの取組により、社会のニーズ変化に対応した知を持続的に創出する体制の構築を確実に進めている。

(ii) 重点戦略の実施状況（5段階評価）

内容	評価
地域イノベーション・エコシステムの構築	3
世界をリードする研究領域の創造	3
価値創造の源泉となる学際的基礎研究の推進	3
優れた研究成果を多く生み出すための研究基盤の整備・充実	4
持続可能な社会への貢献	3

③地域ビジョン

しなやかに地域で活躍できる人材を輩出するとともに、企業や教育機関、行政機関と協働し、知の拠点として地域のシンクタンク機能を果たすことで、地域の抱える課題の解決に寄与し、地域のステークホルダーに頼られ必要とされる、魅力あふれた大学を目指します。

(i) 総括

地域未来創生センターを中心に、県内企業や卒業生の情報を一括管理するステークホルダー管理システムを構築し、学長をトップとした地域企業等への積極的な働きかけを行ってきたことで山口大学地域未来創生センターへの相談事例等が増加している。キャンパスのある山口市及び宇部市との地域連携プラットフォームでは、地域課題の抽出と解決に向けての継続的な協議を行っている。山口県内の産学官金で構成する大学リーグやまぐちが示した「山口県の産業界が求める人材像」に基づき、山口県立大学及び山口学芸大学と連携して、令和5年3月に大学等連携推進法人の認定を受け、3大学によるSPARC教育プログラムを構築した。それに基づき、山口大学では令和7年4月にひと・

まち未来共創学環を設置して、文系 DX 人材の育成を開始した。山口を研究フィールドとした「山口学」は、3年間支援するカテゴリーに加え、単年度支援プログラムを開始し、その成果を毎年度、「山口学紀要」として発行し、山口学の普及を行っている。これらの取組により、地域が求める新たな人材の育成及び地域課題解決に向けた知の創出を行うとともに、地域のシンクタンクとしての機能を強化し、地域のステークホルダーの更なる信頼獲得に向けて、順調に基盤を固めている。

(ii) 重点戦略の実施状況（5段階評価）

内容	評価
地域社会から期待されるシンクタンク機能の強化	4
地域共創拠点の整備	3
地域の持続的発展に寄与する人材育成	3
地域学の研究拠点としての教育研究・文化振興への貢献	3
安全・安心な地域社会実現への貢献	3

④ダイバーシティビジョン

ダイバーシティを活力の源泉とし、すべての学生・教職員が性別、年齢、障害、民族、性的指向や性自認等に関わらず、それぞれの個性と能力を安心して発揮し、繋がり、活躍することにより、多様な知が共奏するダイバーシティキャンパスを創造します。

(i) 総括

大学を構成する学生・教職員の多様性を積極的に高めるために、障害学生や留学生の支援とともに、女性・若手・外国人研究者を積極的に登用している。令和7年度には、女性教員比率の前年増加率が全国の総合国立大学で3位、中四国で1位となった。また、多様な個性や価値観を尊重するため、多様な性的指向と性自認への理解を高めるためのSOGIガイドラインの継続的見直しや、障害に応じた授業での個別配慮、宗教上の配慮を施した宿泊施設の提供、ならびに学内文書の多言語化や留学生相談のワンストップサービス等に取り組んでいる。学生協働にも力を入れ、学生目線を活かしたダイバーシティ推進イベントの開催や、図書館利用の促進、また留学生と日本人学生のペアによるインターンシップやPBLへの参加等の実績を挙げている。国際連携では、重点連携大学事業の推進、共創教育プログラムの開発と実施、ICTを活用した留学フェア等を継続的に実施している。また「大学の世界展開力強化事業」等により、アフリカの大学との交流、留学生の受入が拡充した。こうした幅広い取組により、多様な学生・教職員が活躍できるダイバーシティキャンパスへと確実に歩みを進めている。

(ii) 重点戦略の実施状況（5段階評価）

内容	評価
学生・教職員の多様なニーズへの支援	4
教職員のダイバーシティの推進	4
学生協働の推進	4
国際展開の強化	4

⑤経営ビジョン

学長のリーダーシップのもと、戦略的マネジメントと強力なガバナンス体制により、対話と合意を基本としつつ、しなやかな大学経営を行い、すべての学生、教職員が誇りと喜びを持って学修や職務に取り組めます。また、情報公開により透明性を確保し、地域・社会から信頼される大学を創造します。

(i) 総括

ガバナンスコードの適合状況の公開や、学内外の活動のホームページやSNSによる積極的な発信により、透明性の高い情報公開を確保している。情報セキュリティポリシー群の改定や、ひと・まち未来共創学環や人間社会科学研究科の設置等、地域・社会に必要とされる新たな人材の育成に取り組み、株式等の運用やファンドレイザーの新規雇用による山口大学基金の更なる寄附獲得に向けた体制強化等、学長によるマネジメント体制は機能している。全学DXの推進のため、情報基盤センターをICT基盤センターに改編し、業務効率化に向けてGoogle Workspaceを導入するとともに、データ連携システム構築に必要な仮名化や情報格付け基準等の諸規則を整備した。また、ワークライフバランスを重視した職場の実現のため、業務の見直しや平準化等に取り組み、優秀な教員の早期教授昇任やテニユアトラック制度による若手教員の採用を行っている。これらの取組により、教職員が誇りと喜びを持って学修や職務に取り組める環境の整備を図っている。

(ii) 重点戦略の実施状況（5段階評価）

内容	評価
信頼される大学づくり	3
教育研究支援機能の充実及び地域貢献促進のためのDX推進	3
魅力ある職場環境の構築	3
健全な財務体制の確立	3